

しゅりじょう かわら くだんづく 首里城の瓦で花壇造り



昨年10月の首里城火災で傷んだ赤瓦を使って、那覇市立壺屋小学校の子どもたちと保護者らが校内に花壇を造りました。「リメンバー首里城大作戦イン壺屋小」と題して、首里城の記憶をいつまでも残し続けようと企画されました。児童一人一人が赤瓦に名前やメッセージを書き込み、首里城の再建や新型コロナウイルス感染症の収束など願いを込めながら作業しました。

壺屋小児童や保護者が汗

作業は学校が休みの21、22日の2日間行われました。正門から校舎へと続く通路沿いに、保護者らが石粉（石灰岩をく

首里城火災でこわれた赤瓦（あかがわら）を使って、校内の花壇を造った壺屋小学校の子どもたち＝21日、那覇市・同小

おも する き おく かたち 思い記し記憶を形に

だいたいの（とセメントを混ぜ合わせて土台にし、その上に子どもたちが割れた小さい瓦を丁寧に並べて下地を固めました。最後に大きな瓦をのせて形を整え、しつこく美しく仕上げました。

子どもたちは自分の名前やメッセージを書いた赤瓦を持って、楽しそうに作業に精を出していました。

赤瓦に「コロナがおさまりますように」と書いた2年生の新村健琉さん（8）は「外にあんまり出られなくて、息苦しいから」と理由を話しました。3年生の村山奈緒さん（8）も「友達やおばあちゃんの近くでコロナが発生したら心配」と、瓦に「コロナでなくなる人が少なくなり



割れた赤瓦を組み合わせて並べ、花壇のふちにしています

再建とコロナ収束も願う

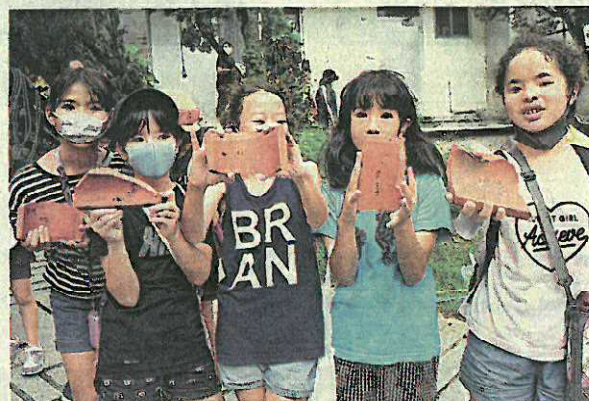
ますように」と書いていました。

6年生の金城妃奈乃さん（11）は、赤瓦に首里城の再建と戦争が起きないように願いを込めました。「燃えた首里城が戦争で壊された後に再建したものだ」と知って、また戦争が起これば燃えてしまったりしないか心配だった。ちゃんと無理に再建されてほしい」と話し

首里城の瓦を活用するアイデアを県などが募集したところ、壺屋おやじの会の企画が採用され、取り組まれました。



瓦には首里城再建や新型コロナウイルスの収束など、願いやメッセージが書かれていました



壊れた赤瓦に自分の名前などを書いて、花壇作りの思いに出しました